

区政に関する質問・意見について

	内容	委員	担当	回答
1	特にプログラミング教育への支援が期待される。	山口 委員	市民協働課	質の高いプログラミング教育の推進に向け、児童がプログラミングに触れる機会を提供するため、引き続き、取り組んでまいります。
2	地域活動協議会への理解は十分とは言えない。是非「中核的な役割を担う町会」への直接の支援を期待します。	山口 委員	市民協働課	住民の地域活動協議会に対する理解度の向上に向けて、区としても継続した対策が必要であると考えており、地域での地活協の理解促進に向けた取り組みを進めているところです。また、町会に対する直接的な支援として、東成区では町会への加入促進のため、広報紙への記事掲載や転入者へのビラ配布等の啓発に取り組んでいるところです。また、全市的にも不動産事業団体と連携し、マンション建設時に入居者に対し事業者から町会加入促進の啓発も始めてきております。引き続き、様々な方面から地域活動協議会の中核的な団体である町会への加入促進の取り組みを実施してまいります。
3	コロナが蔓延している中で自宅で過ごす機会が多くなり、オンラインでのやり取りは必要だが、その使用方法の啓発的取り組みを考えていただきたい。また、自宅で過ごす時間が増えているため、子供たちの体力向上の取組みを今まで以上に行っていただきたい。	大野 委員	市民協働課	コロナ禍によりインターネットの利用が増加する中、SNSの利用やネット上の人権問題などにつきまして、現在、小学生向けの啓発冊子を作成中であり、学校や地域で活用いただく予定です。また令和3年度には中学生向けの啓発冊子作成を予定しております。 子どもの体力向上事業については、これまでの運動能力向上を目的とする種目のみならず、コロナ禍で体力の落ちた児童に向けて、委託事業者に体力を維持向上させるようなプログラムを提案してもらい、実施しております。令和3年度もより一層、取り組んでまいります。
4	おひさま広場の予約・回数制限・人数制限の工夫はとて面白いと思う。また、子育ての相談ができる支援センターは、保育園・幼稚園を利用されていない保護者にとって、安心、支えになっていると思う。「おひさま広場」「ブックスタート」などの取り組みを引き続きSNSや検診で多過ぎても良いくらい発信していただきたい。さらに、子育てを行ううえで利用する機会がある小児科・薬局などにパンフレット等を設置すると効果があると思う。	大野 委員	保健福祉課 (児童・保健)	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、利用制限を行うなど利用者の皆様には、ご不便をおかけしています。 いただきましたご意見をふまえて、「おひさま広場」や「ブックスタート」などの取り組みをはじめ、子育て支援に関する情報について、広く周知できる方策を検討してまいります。
5	SDGs、PDCA、ステークホルダー、マルチパートナシップ等、今ではよく使われる単語であるが、初めて聞かれる方などのために注釈を付けていただきたい。	井上 委員	総務課 (総合企画)	広く区民の方に、区の取組方針等を理解していただけるよう、運営方針に記載の英語表記や広く浸透していない文言等に注釈をつけるようにします。
6	自転車マナーアップ啓発について、放置自転車や盗難の件数は減少傾向にあるが、左側通行に関して守られていない方が目立つので、交通ルール・マナーアップの啓発を強化していただきたい。	井上 委員	市民協働課	自転車利用マナーアップ啓発については、地域・警察・関係局等との連携のもと実施しており、区内の放置自転車台数は減少傾向にあります。また啓発では、自転車の車道左側通行や走行中のマナーについても、積極的に注意喚起を行っているところです。今後とも、関係機関との連携のもと、情勢に応じた啓発活動を推進してまいります。
7	オープンファクトリーについて、事業の理解が広がるよう、説明を記載してはどうか。	井上 委員	市民協働課	オープンファクトリーについて、事業の理解が広がるよう、令和3年度東成区運営方針案（具体的取組4-2-2の当年度の取組内容欄）に注釈をつけて、説明を行ってまいります。
8	地域福祉の推進には、人と人とのつながりが大切である。コロナ禍であるが、工夫してつながりを維持していくことが重要である。また、コロナ禍が収まった時に、どう活動を再構築するのも必要と考える。	石塚 委員	保健福祉課 (高齢福祉)	高齢者食事サービス活動では、会食から配食による活動に変更したり、地域福祉活動においては、感染防止対策を確実にしつつ、参加人数を減らしながらも開催回数を増やしたり等の対応により、つながりを切らぬよう、それぞれの地域において工夫していただいています。また、地域活動者や専門職、行政等の間での打合せや研修においてオンライン会議の取組みも始まっています。人と人が気にかかけ合う心や、社会的なつながりをつくることの大切さを再確認しつつ、地域活動者・専門職・行政等が連携・工夫しながら状況にあった活動が展開できるよう取り組んでまいります。